平成２７年度　安来市総合教育会議　議事録

１．日　時　　平成２８年２月１７日（水）１５：００から

２．会　場　　安来中央交流センター　第5会議室

３．出席者

（構成員）　近藤宏樹市長、勝部慎哉教育長、赤名佐代子委員、少林浩道委員、

森井優委員、加藤隆志委員

　（事務局）　清水総務部長、奈良井教育部長、武藤教育総務課長、難波学校教育課長、宮田総務課長、細田教育総務課総務係長、堀内総務課統計情報係長

　（司　会）　宮田総務課長

４．傍聴者　　なし

５．内　容

○宮田総務課長

定刻になりましたので第４回総合教育会議を開催いたします。皆様にはお忙しい中、総合教育会議にご出席いただきまして有難うございます。

それでは、近藤市長にご挨拶を頂いた後、議長として会議の進行をお願いいたします。

○議長あいさつ（市長）

只今より第４回目の安来市総合教育会議をはじめさせていただきます。

これまで３回の会議で貴重なご意見をいただき、「安来市教育大綱」案について検討をいただきましたが、本日は大綱の承認をいただき、策定させていただければと考えております。また、安来市教育大綱を踏まえ、平成２８年度以降の「安来市の学校教育の実施体制についても説明していただくことになっておりますのでよろしくお願いいたします。

まず、第１の安来市教育大綱（案）につきまして説明をお願いします。

○武藤教育総務課長

　前回の最終案につきまして、三点ご指摘をいただきました。それを基に修正しております。

まず一点目は、基本目標①の説明文です。一文が長かったので、二つにくぎり「基礎的・基本的な学習と発展的な学習の推進を図り、「知識・技能」に加え、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力など」を育てます。さらに、国際感覚を養い、子ども自らが主体的に学ぶ授業や細やかな指導を通して、個々の能力を引き出し伸ばすとともに、自分で課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に問題を解決する資質屋能力を育みます。」としました。

二点目は、基本目標の③の説明文です。意味が通りやすいように語句を並べ替えて「生活習慣や食育に関する指導や体力・運動能力を高める指導、自らの生命を守るための安全教育を通して、心身の健康の保持増進を図るとともに、たくましい体を育みます。」としました。

三点目は、教育大綱のイメージ図です。一番下の文言を基本目標を支えるベースの文言と合わせました。（自然、ひと、もの、ことを通した教育の推進）

以上が修正点です。

○議長

説明が終わりました。

委員の皆さん何かご意見等ありましたらお願いします。

○少林委員

審議を重ねる度に、非常に全体的に構成といいますか、まとまりが整ってきまして、新しい教育をこれから決定して行くのに相応しい大綱になっているのではないかと私は感じております。その中で安来市の特徴ですとか、特に重点のところとかが、分かりやすく表現なされていますので良くなったと思います。

○教育長

　１ページの図の中ですが、第２次安来市総合計画がありまして矢印で安来市教育大綱、矢印安来市の学校教育、左側の文言ですけれど、下から４行目のところですが、学校教育や社会教育の更なる充実を図るとなっております。しかし、図の中には社会教育は無いですので、安来市の学校教育の下に社会教育という言葉を入れた方がいいと思います。

○議長

　左の文章には学校教育・社会教育が入っているのに、この図では安来市の学校教育になっています。そうですね、社会教育を入れないといけないですね。

挿入してもよろしいでしょうか。

《異議なし》

○議長

他にはありませんか。

　それでは、無いようでしたら、今、教育長が提案いたしました１ページの図の中に社会教育を挿入したもので「安来市教育大綱」について、承認をいただけますか。承認される方は挙手をお願いします。

《全員挙手》

全員挙手ということで「安来市教育大綱」は承認されました。

この大綱の期間は、平成２８年度から３１年度までの４年間でありますのでよろしくお願いいたします。

続きまして、協議事項２の学校教育の今後の実施体制について、事務局より説明をお願いします。

○武藤教育総務課長

続いて「安来市教育大綱」策定後の市内の小中学校における、「学校教育の今後の実施体制について」説明いたします。

別紙「安来市教育大綱を受けて～安来市内小中学校の教育計画策定までの流れ～」をご覧ください。

一番上の「安来市教育大綱」策定を受けて、その下の「安来市の学校教育」を安来市の学校全体の計画として教育委員会において策定します。その内容は大綱の基本目標、基本目標を支えるベースを５本の柱として、それぞれに具体的な方針を決めます。

１の「確かな学力を育てる教育の推進」については、

　・学力向上の推進

　・国際理解教育の推進

　・図書館活用教育の推進

２の「豊かな心を育てる教育の推進」については、

　・道徳教育、人権教育の推進

　・情報モラル教育の推進

３「心身の健康を大切にする教育の推進」については、

　・体力や運動能力向上の推進

　・食育の推進

　・自らの命は自ら守る安全教育の推進と危機管理体制の整備充実

４の「ふるさと教育の推進」については、引き続き推進していきます。

５の「全ての子どもの学びを支える教育の推進」については、

　・保育所、幼稚園、認定子ども園、小学校、中学校の連携の促進

　・全ての子どもの学びと育ちを支える特別支援教育の推進

　・地域の教育支援体制づくりの推進

　・教職員の指導力の向上

以上は、現時点での案の一部分です。今後、協議を重ね策定していきます。

そして、この「安来市の学校教育」を基に、一番下の枠になりますが、各小中学校が、各校の実態に応じて、独自の「学校の教育目標」、「めざす子ども像」を定め、その実現に向けての「学校経営方針」とその「経営の重点と具体的な取り組み」を策定し実施していくように考えております。そしてこの「安来市の学校教育」と各学校の「学校の教育目標」は１年毎に見直しを行い、より実効性のある計画にしていきたいと考えております。

○議長

　説明が終わりました。何かご意見がありましたら

○森井委員

安来市の学校教育の５の、すべての子どもの学びを支える教育の推進のところの特別支援教育の推進というのは、発達障がいの子どもさんたちの特別的な支援になりますね。

○武藤教育総務課長

　発達障がいも含みます。

○森井委員

最近子どもさんの発達障がいも多くなっていますので、地域で独り立ちできるよう頑張っておられるので、安来も実際動きが出ていると思いますが、もっともっと力をいれればと思います。

○議長

　特別支援教育の対象とされない子どもたちのフォローが必要だと思います。

○教育長

　特別支援教育というのは、教育支援会議で特別支援学級に入級する児童生徒、特別支援学校に入学する児童生徒等が協議されます。以前であれば障がいの種別で入級する学級数など出していましたが、今は、インクルーシブ教育システムの構築といって、子どもさんの教育的ニーズに合わせて必要な場面で必要な教育を受けられるよう、多様な学びの場が準備される必要があるといわれています。支援学級に入級せずに通常学級での学習を希望される場合もあります。そのためには個別の支援が出来るような合理的な配慮が必要です。ただ、合理的な配慮を行ううえでは、どうしても人的支援が必要になり、そのためには経費が必要になります。それは、市町村、県レベルの出来る範囲の中で何とか負担してください、ということになります。特別支援学級の新設は、今は多くの自治体で対象のお子さんが一人おられれば学級が新設になります。特別支援学校よりも特別支援学級を希望される場合もあります。また、通級指導教室もあり、安来市には南小と十神小の２小学校に２人の担当教員がいます。中学校には、三中に１人担当教員がいます。通級指導教室は、通常学級で授業を受けながら、決められた時間、一人一人の困難を軽減させていくための指導を受ける場です。あるいは、診断はなく通常の学級の中でみんなと一緒に学習や活動をしているんですけれど、いろいろな問題が起こった際、支援をする支援員を配置するというような形で人的な支援をしています。担当者も徐々に増やしていただいています。全ての学校で特別支援教育の考え方を大切にし、一人一人の教育的ニーズに合わせた支援が必要です。それから、不登校については、県の方からも、教員の加配を全部ではないですけれどごく一部いただいている学校があります。不登校、問題行動などについては特別支援教育とは別の仕組みになっています。特別支援教育とは、子どもの教育的ニーズを把握し、適切な指導支援を行うもので学校現場でも浸透しなければいけないし、保護者の皆さんに理解をしていただかないといけないものです。

○赤名委員

　２番の情報モラル教育の推進というのは、スマホとかネットのことですか。

○難波学校教育課長

　スマホとか通信機器と上手に付き合っていくという、良い所は活用して、害になるところは、害になるということを理解して使っていけるような資質を養うというのが表面的な目標なんですが、もう少し深いところまで考えますと、人を大事にするという人権意識を育てる。スマホなどでのいじめ問題も結局人を傷つけているところがありまして、心の教育と繋がってくるんですけれど、目指しているのはその部分です。

○議長

他に何かありませんか。無かったら議案の３．その他事務局はありますか。

○宮田総務課長

　３につきましては、２７年度は４回終了ということですが。次年度からの開催につきましては、事務局としましては、７月第一四半期が終わったぐらいですとか、次年度の予算のことを考える１１月頃の２回を想定しているところです。

○議長

それでは、以上で第４回目の総合教育会議を閉会といたします。

以下意見

○幼稚所、保育園とは交流はあるけれ、高等学校とは交流がなく、連携が取れないか。

○十神小学校でもミリアン市とは交流しているが、近隣の市町村とはあまり交流がない。大人になってから商工会議所に入ってからではなく、小さいときから松江、米子の人と交流を盛んにさせたい。

○県立高校のフリー校区化について

○今年インターハイが安来市はテニスが開催されるのをチャンスとして、フリースクール、通信とか大学、高校の学校誘致をして欲しい。

○安来は富田城、米子は米子城、松江は国宝の街、ふるさと教育と結び合わせて、その地域の事を勉強して、遠足がありますが、ただ遊ぶ所に行くのではなく、松江城に行くのなら、松江城を調べたところの学校と連携し、実際生徒が調べたものの発表を聞かせてもらい意見交換も行ったりすると交流にもなると思います。そういうテーマを儲けて行事も行うといいと思います。（提案）

○少林委員

　・整備されている富田城の発信について

・安来市の文化的財産について